

とうにょうびょうしんぶん 糖尿病新聞

第3号
2022年11月
発行人：糖尿病
指導検討委員会

とうにょうびょうじんしょう なん 糖尿病腎症って何だろう？

じんぞう けつえき ろか からだ ろうはいぶつ によ はいせつ
腎臓は、血液をろ過して体の老廃物を尿として排泄します。

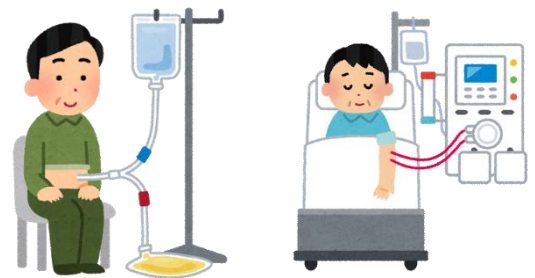
とうにょうびょうじんしょう ろか やくわり しきゅうたい もうさい
糖尿病腎症になると、ろ過の役割をしている糸球体の毛細

けっかん じんぞう きのう しょうがい
血管がそこなわれて、腎臓の機能が障害されてしまいます。

じんしょう しんこう しょくえん しつ せつしゅりょう きびしくせいげん
腎症が進行すると、食塩やたんぱく質の摂取量が厳しく制限さ

しょくじりょうほう ひつよう
れた食事療法が必要になります。

しょうじょう すすむ きかい けつえき ろか じんこうとうせき ひつよう
さらに症状が進むと、機械で血液をろ過する人工透析が必要
になってきます。



とうにょうびょうしんけいしょうがい 糖尿病神経障害ってどんなもの？

ほそいけっかん しょうがい けつりゅう わるく しんけいさいぼう けつえき
細い血管が障害されて血流が悪くなると、神経細胞への血液

きょうきゅう とだえて じりつしんけい しょうがい
の供給が途絶えてしまうため、自律神経にも障害が

おこります
起こります。

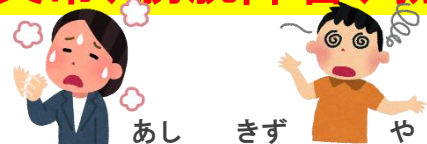


ばあい はっかんいじょう たち べんつういじょう ぼうこうしょうがい ぼっき
その場合、発汗異常、立ちくらみ、便通異常、膀胱障害、勃起

しょうがい しょうじょう
障害などの症状があらわれます。

いたみ かんじにくく あし きず やけど
痛みを感じにくくなっているため、ちょっとした足の傷や、ヤケド

きづか えず えそ あし せつだん
に気づかず、壊疽(えそ)になって足を切断することもあります。



とうによびょう 3 だい が っ べ い し ょ う た だ し く お そ れ る 糖尿病3大合併症を正しく恐れる



まずはどんな病気なのか、^{びょうき} ^{ただしくりかい}正しく理解すること
が大切で、そのうえで上手に^{たいせつ} ^{じょうず} ^{たいしょ}対処してい
けば、^{とうによびょう} ^{ひと} ^{おなじ} ^{せいかつ}糖尿病ではない人と同じような生活
が今後も送れる可能性が高くなります。

^{しょくじ} ^{まいにち} ^{けつとう} ^{こんとろー} ^る
食事は毎日のことですから、血糖コントロール
^{おおきく} ^{えいきょう} ^{とうによびょう} ^{たべたら}
に大きく影響します。糖尿病だから食べたい
けない、ということはありませんので、^{きがる}
気軽に
^{そうたん}
相談してくださいね。



^{とうによびょう} ^{かんり} ^{じゅうぶん} ^{おこなわない} ^{ほうち} ^{じんきのう} ^{ていか} ^{とうによびょうせいじんししょう}
糖尿病の管理を十分に行わないまま放置すると、腎機能が低下してきます。(糖尿病性腎症)
^{とうによびょうとうせきよぼうしどう} ^{とうによびょう} ^{ほう} ^{じんきのう} ^{ていか} ^{そうき} ^{はっけん}
糖尿病透析予防指導では糖尿病のある方の腎機能の低下を早期に発見し、
^{じんきのう} ^{ていか} ^{とうせきどうにゆう} ^{よぼう} ^{せんにいし} ^{かんごし} ^{かんりえいようし}
腎機能の低下と透析導入を予防するために、専任医師、看護師、管理栄養士などによる
^{とうによびょうとうせきよぼうしんりようち} ^{ーむ} ^{ちりよう} ^{さぼーと}
糖尿病透析予防診療チームが治療のサポートをします。
^{ないかい} ^{しんさつび} ^{どうじつ} ^{かんごし} ^{にちじょうせいかつ} ^{しどう}
内科医の診察日と同日に、看護師による日常生活の指導、
^{かんりえいようし} ^{しよくじりようほう} ^{しどう} ^{おこなって}
管理栄養士による食事療法についての指導を行っています。

へんしゅうしゃ 編集者より

^{だい2ごう} ^{だい3ごう} ^{とうによびょう} ^{さいしゅうけっかんしゅうがい} ^{くわしくの} ^{べました} ^{とうによびょう} ^{おく} ^{ふかいしっかん}
第2号、第3号では糖尿病の細小血管障害について詳しく述べました。糖尿病は奥が深い疾患
ですから、わからないことは透析予防指導等でお気軽にお尋ねくださいね。